

授業科目名	和文： 法学B－民法を考える－ 英文： Jurisprudence B : Outline of Civil Law				時間割	金 5-6	
科目コード	501-0014	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	日本国憲法B・C 民法I						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
西台 満	政策科学	3-328、889-2659					
オフィスアワー	曜日及び時間：	場所：					
授業の目的及び到達目標 1. 目的 先ず一般教育（General Education＝本学では教養基礎と呼んでいる）の目的としては、生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭に keep しているわけだが、大学に入ったのをいいきっかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つづつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。 2. 到達目標 自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも改めて「本当だろうか？」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では民法・民事訴訟法を題材にして、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。							
カリキュラム上の位置付け 最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1 高校までの「勉強」と、大学でする「学問」の違い 2 時代の変化－工業化時代から情報化時代へ－ 3 過失責任主義 4 物権と債権 5 物権の排他性と公示制度 6 動産の公示－占有－ 7 不動産の公示－登記－ 8 債務不履行と不法行為 9 拳証責任 10 公害訴訟 11 証明と疎明 12 消費者金融							
授業に関連するキーワード	過失責任主義	物権	債権				
占有	登記	公害	証明				
成績評価の方法及び合否判定基準 1月下旬の一回の試験で。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、出席を取る。							
教科書・参考書等 教科書として、 西台著『理論民法』高文堂出版社（2000円）							

授業科目名	和文：日本国憲法A－自分の憲法観が持てるように－ 英文：The Constitution of Japan A:				時間割	金 7-8	
科目コード	501-0041	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	くらしと法－教養法学－，教養ゼミナールⅡ－人権の現代的諸相－						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
池村 好道	(教育文化学部)	教文3-330・2661					
オフィスアワー	曜日及び時間：月曜日 18:00～19:00			場所：教文3-330 (電話 889-2661)			
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解							
2. 到達目標							
1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。							
2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。							
3) 各種の憲法問題の基礎を正確に把握できる。							
カリキュラム上の位置付け							
<p>本学の教育目標である「社会の変化に柔軟に適應できる幅広い教養」の涵養のための授業科目の一つ。 本授業科目は統治機構に主眼がおかれており、「人権の現代的諸相」の履修と合わせて、憲法の全般的理解が可能となる。</p>							
授業の概要と進行予定及び進め方							
<p>・憲法の理念と現実という問題を意識しながら、比較憲法的視点を加味して、統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。(最終回は試験実施)</p> <p>以下の項目を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為 2. 平和主義：9条の解釈 3. 国会：両院制，参議院の存在理由など 4. 内閣：議院内閣制など 5. 裁判所：司法権の観念と帰属など 6. 地方自治：「地方自治の本旨」など 7. 基本権：種類，享有主体など <p>・講義のなかで、憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。</p> <p>・教育文化学部学校教育課程以外の学生については、受講者の人数制限を行うことがある。</p>							
授業に関連するキーワード	憲法	統治機構	象徴				
戦争の放棄	衆議院の解散	司法権の独立	外国人の人権				
成績評価の方法及び合否判定基準							
学期末試験の結果により、出席状況を勘案して評価。							
教科書・参考書等							
教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。							

授業科目名	和文： 日本国憲法C－自分の憲法観が持てるように－ 英文： The Constitution of Japan C				時間割	木 3-4	
科目コード	501-0043	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部 1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	法学 A・B						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
西台 満	政策科学	3-328、889-2659					
オフィスアワー 曜日及び時間： 火、 4：10～5：40			場所： 西台研究室（3-328）				
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット（初期化＝パソコン用語で、新しいデータを書き込めるように、古いデータを全部消去すること）するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。							
2. 到達目標 (1) 憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようにになっている。そういう憲法観のどこがおかしいのか？ 主要な問題を取り上げて、批判する。 (2) たとえ常識みたいに思われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。							
カリキュラム上の位置付け							
社会科学であれ自然科学であれ、発明・発見をするには上記のような批判的思考力が絶対必要である。本講は、最も一般教育（本学では、教養基礎と呼んでいる）らしい科目であり、これを受けるか受けないかで、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。							
授業の概要と進行予定及び進め方							
1. 憲法の名宛人							
2. 基本的人権と「法律の留保」							
3. 天皇制の意義と、国事行為に関する解釈							
4. 自由と平等の関係							
5. 「法の下での平等」の意義と法律制定の目的							
6. 選挙と「法の下での平等」							
7. 政教分離のあり方							
8. 三権分立							
9. 衆議院の解散							
10. 地方自治を殺す憲法解釈							
授業に関連するキーワード	国家元首	一票の重み	ジョン・ロック				
衆議院の解散	法治主義	政教分離	地方自治				
成績評価の方法及び合否判定基準							
1月中旬の一回の試験で評価する。 出席の良し悪しも考慮するため、毎回出席を取る。							
教科書・参考書等							
教科書として、 西台満著『日本国憲法原論』高文堂出版社（2667円）							

授業科目名	和文：現代社会と経済 I B－経済学入門－ 英文：Modern World and Economy IB:Introduction to Economics				時間割	木 3-4	
科目コード	501-0104	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	2期
受講対象学生							
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
島澤諭	教育文化学部	教文 3-326 889-2657					
オフィスアワー		曜日及び時間：講義・会議時以外随時			場所：教文 3-326		
授業の目的及び到達目標 1. 目的 日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解する。 2. 到達目標 経済現象を説明できる。							
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方 この授業では、わが国では歴史的経緯から「近代経済学」と呼ばれているグローバルスタンダードな経済学を使ってさまざまな日常問題(経済・社会・政治)を分析することで、高度に抽象化されている経済理論の概要を紹介します。							
授業に関連するキーワード	ミクロ経済学	マクロ経済学	市場メカニズム				
成績評価の方法及び合否判定基準 期末に実施する試験により行う。追試験・再試験は実施しない。60点未満は不合格とする。							
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書・参考文献は授業中に随時紹介する。							

授業科目名	和文：現代社会と経済ⅡB－現代社会と経済学－ 英文：Modern World and Economy IIB:Contemporary Society and Economics				時間割	金 1-2	
科目コード	501-0114	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
小林 正雄	教育文化学部		教文3－327・2658				
オフィスアワー 曜日及び時間：金 16:30～17:30			場所：教文3－327（電話：889-2658）				
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 経済学（社会科学）の見方・考え方を知り、現代社会をトータルに見る眼を養う。							
2. 到達目標 やがて進んでいくそれぞれの専門分野（教育、経済・法などの社会領域、医療、技術等）について、どのような角度から見ればいいのかを身につける。							
カリキュラム上の位置付け							
社会・歴史を科学的に考察するための科目の一つであるが、とくに地域科学課程の学生は、専門教育（日本経済論など）の基礎として履修しておくことが望ましい。（「現代社会と経済学」は、同一授業内容ゆえ、A・Bのいずれかを選択し履修すること。）							
授業の概要と進行予定及び進め方							
1. 経済学の面白さ－“発展段階論”の意義－							
2. “発展段階論”とはなにか							
3～4. “三段階論”の必要性							
5～8. 純粋資本主義と原理論							
(1) 純粋資本主義とはなにか							
(2) 純粋資本主義と原理論（景気循環）							
9～13. “発展段階論”の論理							
(1) 資本主義の発展段階と構成要素							
(2) 「20世紀システム」考							
(3) 「21世紀システム」考							
14～15. 日本経済への視点							
授業に関連するキーワード	三段階論	原理論	発展段階論				
現状分析							
成績評価の方法及び合否判定基準							
試験あるいはレポートを中心に、出欠状況を加味して、総合的に評価する。							
教科書・参考書等							
使用の予定							

授業科目名	和文：現代社会と経済 III -マーケティングと現代社会- 英文：Modern World and Economy III: Introduction to Marketing			時間割	水 3-4
科目コード	501-0120	必修・選択	選択	単位・時間数	2・
開設学期等	開設学期等				2期
受講対象学生					
授業の形式	講義・学生参加型	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名	消費者行動論、消費者問題論				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
天野恵美子	教育文化学部・地域科学課程生活者科学	018 - 889-2554			
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜 7・8 時限			場所：教育文化 1 号館 306 A	
授業の目的及び到達目標 1. 目的 ・自らの生活と密接な関係を持つ消費生活及びマーケティングに関する基本的な理論と実践を学び、マーケティング知識（売り手の論理）を身に付け、消費者（買い手）である自らの消費生活に対する理解を深める ・現代社会におけるマーケティングの役割と社会・消費者との関わり、その複雑性・多面性について学ぶ 2. 到達目標 ・マーケティングの基本的枠組みや用語を説明できる ・現代社会におけるマーケティングの役割や影響、消費生活との関わりについて説明できる ・消費者・企業双方の視点に立って消費生活を営む姿勢を身につける					
カリキュラム上の位置付け					
授業の概要と進行予定及び進め方 第1回 開講ガイダンス 第2回 マーケティングとは何か 第3回～第7回 マーケティングの展開 1) 製品戦略 2) 価格戦略 3) 流通戦略 4) プロモーション戦略 第8回 マーケティングの国際化 第9回 マーケティングの拡張 第10回 マーケティングと現代社会 (1) 第11回 マーケティングと現代社会 (2) 第12回 マーケティングと現代社会 (3) 第13回 レポート発表 第14回 試験 ・講義およびケース・スタディの複合型授業（前半は講義＋VTR 学習の形式を取り入れ、マーケティングの理論と実践に対する学びを深める。後半はグループ単位でテーマにのっとった発表を行う） ・授業開始時に小テスト、授業内小課題およびグループ活動があるため、積極的な参加・出席が望まれる					
授業に関連するキーワード	マーケティング	社会	消費者		
企業					
成績評価の方法及び合否判定基準 ・レポート課題・研究発表・・・20点 ・授業内テストおよび小課題・・・30点 ・最終試験・・・50点 100点を満点として下記分類により評価 A 100点～80点 B 79点～70点 C 69点～60点 D 59点～0点					
教科書・参考書等 教科書 ・恩蔵直人 (2004) 『経営学入門シリーズ・マーケティング』日本経済新聞社。 参考書 ・石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎 (2004) 『マーケティング入門』日本経済新聞社。					

授業科目名	和文：日本と諸外国の政治ⅠA－現代日本政治－ 英文：Politics in Japan and Foreign Countries IA:Modern Japanese Politics				時間割	火 3-4	
科目コード	501-0153	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年次						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
中村 裕	教育文化学部	教文 3-332,2604					
オフィスアワー 曜日及び時間：火 16:00-17:00			場所：教文 3-332				
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 戦後日本の展開、特質を歴代内閣の仕事とその時代背景を検討しつつ、理解する。							
2. 到達目標							
1. 具体的な戦後日本の政治家、政党、内閣の事業を検討することを通して、政治、政治的 発想について考える姿勢、問題意識を身につける。							
2. 民主主義、国民的合意、民意の反映に関して、戦後日本政治の考察を通して検討する。							
3. 新聞や総合雑誌の論調を読み取るための基礎力をつける。							
カリキュラム上の位置付け							
社会科学入門							
授業の概要と進行予定及び進め方							
1. 戦後改革と五十五年体制の成立							
2. 戦後日本の保守と革新							
3. 60 年安保闘争の意味							
4. 高度経済成長と自由民主党の政治スタイル							
5. 経済大国の諸相							
6. 田中内閣と戦後民主主義							
7. 低成長時代の政治思潮							
8. 中曽根内閣の「戦後政治の総決算」							
9. 冷戦後の日本政治が直面した諸問題							
10. 自民党一党優位体制の崩壊							
11. 政界再編							
12. 行財政改革を取り巻く状況							
13. 新自由主義とそれに対抗する動き							
14. 戦後日本政治の構造							
15. 試験							
授業に関連するキーワード	五十五年体制	保守と革新	護憲と				
経済優先	戦後ナショナリズム	日本型福祉	政治改革				
成績評価の方法及び合否判定基準							
最後の試験を重視するが（80％）、数回のアンケート＋小テストの結果も考慮する。 暗記物ではない。事実を理解し、それに対する自分なりの考察ができているかどうかを重視する。							
教科書・参考書等							
参考書 御厨貴編『歴代首相物語』新書館、石川真澄『戦後政治史』岩波新書							

授業科目名	和文：社会と家族B－家族社会学の基礎－ 英文：Society and Family B:the Basis of Family Sociology				時間割	水 3-4	
科目コード	501-0191	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
石 沢 真 貴	政策科学	教文 3-331・2616					
オフィスアワー 曜日及び時間：火, 水, 木			場所：教文 3-331				
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。							
2. 到達目標 家族に関する基礎知識を身につける。 社会集団としての家族の構造や機能を理解する。 家族をとりまく社会変化を理解する。 家族に関する社会制度を理解する。							
カリキュラム上の位置付け							
社科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目 社会学、特に家族社会学的内容							
授業の概要と進行予定及び進め方							
授業の概要 家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを問いつつ考察する。							
進行予定及び進め方							
1 ガイダンス							
2 家族の定義							
3 家族に関する基礎的概念							
4 家族と法							
5 法に関する近年の動向							
6 近代社会と近代家族							
7 世帯構造の変化でみる現代家族							
8 世帯構造変化の要因							
9 家族機能の変化と家族問題							
10 社会制度としての結婚							
11 結婚に関する近年の動向							
12 離婚・再婚に関する近年の動向							
13 夫婦関係と性別役割分業							
14 ライフステージからみた家族関係							
15 現代家族のゆくえ							
授業に関連するキーワード	家族	近代	社会学				
成績評価の方法及び合否判定基準							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。 ・ 授業内のレポート等提出物を評価の際に考慮する場合もある。 ・ 総合的な評価の結果が60点未満の場合は不合格Dとする。 							
教科書・参考書等							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は使用しない。 ・ 必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。 							

授業科目名	和文：大学生生活と学習 I Bーキャリア形成入門ー 英文：Campus Life and Learning IB:an introduction to career formation				時間割	月 9-10
科目コード	501-0314	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等 2期
受講対象学生	全学部 1～3 年次					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
中村 裕	教育文化学部	教文 3-332,2604				
オフィスアワー 曜日及び時間：火 16:00-17:00			場所：教文 3-332			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 明確な目的意識をもって主体的に自らのキャリアについて考える姿勢を確立する。就職活動を有利にするための how to ものと考えて受講すると失望する。 2. 到達目標 1. 仕事をすることの意味を考える態度を身につける。 2. 将来自分が仕事をする世界を取り巻く環境について正確に理解する。 3. 自分の希望を達成するために何をしなくてはならないか等に関して自己分析を行う力を つける。						
カリキュラム上の位置付け 文字通りキャリア形成入門						
授業の概要と進行予定及び進め方 1. ガイダンスー大学での経験がキャリア形成にとって持つ意味 2. 今年度の就職をめぐる状況 3. 労働の意味を考えるー今村仁司『近代の労働観』を手がかりに 4. 講演「秋田大学の学生に求められるもの」 5. 日本の労使関係 (1) ー高度経済成長と「会社人間」 6. 日本の労使関係 (2) ー新自由主義のなかでの変容 7. 講演「企業のなかでの能力の生かし方」 8. 講演「新聞はこう読もう」 9. 公務員の世界 (1) ー公共サービスとは何か 10. 公務員の世界 (2) ー地域社会を創るという発想 11. 講演「山王ー公務員の世界から見えてくるもの」 12. 講演「勤労者にとっての法律学」 13. 講演「職業選択の方法」 14. まとめと意見発表ー職業観の再構築 15. レポートー卒業後の進路について						
授業に関連するキーワード	キャリア形成	職業観	日本的労使関係			
雇用形態の多様化	議院内閣制	公共サービス	主体的選択			
成績評価の方法及び合否判定基準 授業参加の積極度+レポート						
教科書・参考書等 今村仁司『近代の労働観』、ロナルド・ドーア『働くということ』(中公新書)						

授業科目名	和文：大学生活と学習Ⅱ－大学教育・学習論－ 英文：Campus Life and Learning II: Teaching and Learning in University				時間割	水 7-8	
科目コード	501-0321	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部・全学年						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	(特になし)						
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
細川 和仁	教育推進総合センター	一般教育1号館2階204室・TEL018-889-3188					
オフィスアワー 曜日及び時間：水曜日 13:20～14:20, 16:10～17:10 場所：教員室（一般教育1号館2階204室）							
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 大学における教育・学習の特徴について、講義や学生同士の意見交換を通じて考察する。							
2. 到達目標 1) 大学教育に関して最近になって浮上してきた課題など、大学教育研究の概略を説明できる。 2) 大学教育の課題に対して自分の意見を持つ。あるいは新たなアイデアを提出することができる。 3) 自分の考えをまとめ、他の受講者にわかりやすく説明するための工夫ができる。また、他の受講者の説明を聞くことができる。 4) 他の受講者と意見交換を行い、意見を集約することができる。 5) 自らの学歴意識や大学での学習に対する意識を、積極的に省察する。							
カリキュラム上の位置付け							
教養基礎教育の目標「(1) 高校教育から大学教育への円滑な導入・転換を図り、大学生としての学習方法の基本に習熟させる」と関わり、なぜ大学に進学して学ぶという選択をしたのか、あるいは大学から何を学び取るのかについて、それぞれの学生が客観的に考えてみる科目。							
授業の概要と進行予定及び進め方							
高等学校への進学率は、97.6% (2005年)。では、大学への進学率はどれくらいかご存知だろうか。 大学進学率の上昇は、高等教育がより多くの人々に開かれることを意味すると同時に、大学の役割の変化にもつながっていく。どんな変化が起きているのか、その変化に対して大学はどのように取り組んでいるのか。そして、秋田大学で学ぶという選択をしたあなたはどのような大学生活を送るのか。 大学教育の現状について知るとともに、そこで学習する意味、意義についても積極的に省察（せいさつ）しよう。							
各回の授業は、教員による講義と学生同士の意見交換を中心に進める。取り上げるテーマとキーワードは次の通り。 ・ユニバーサル化する高等教育……………進学率、大学「全入」時代、大衆化 ・大学に進学する動機……………学歴意識、不本意就学、満足度 ・大学のカリキュラム……………教養教育、専門教育、単位制、高校との接続 ・大学の「学校化」と学生の「生徒化」……………高校と大学、高校生と大学生、大人の学び ・大学の授業改善……………授業評価、良い授業、悪い授業、FD、学習意欲 ・大学授業のデザイン……………シラバス、成績評価、目標 ・大学教育・学習の課題……………レポート ・大学改革の担い手……………学習する環境づくり							
授業に関連するキーワード	学習	大学教育	大学生				
進学	授業評価	成績評価	参加・参画				
成績評価の方法及び合格判定基準							
成績評価は100点を満点とし、次の3つの課題に配点する。 いずれの課題も、指定した様式に則って、不正なく真摯に取り組んでいれば、最低でも6割の得点を与えることにしている。 1) 小レポート (20点) ……昨年度の課題は「後輩にオススメしたい本」の紹介。 2) 大レポート (50点) ……授業内容に関連するテーマについてのレポート。 3) リフレクション・ノート (30点) ……各回の授業終了時に記入し提出する。未提出（無記入）が6回に達した時点で履修放棄とみなす。							
参考までに、過去2年間の成績分布は以下の通り。 A：24%，B：51%，C：18%，D：8%（ただし、履修放棄は除く）							
教科書・参考書等							
教科書……………特になし。 参考書……………関心のある人は読んでみてほしい。その他にも、授業中に紹介していく予定。 ・内田 樹『先生はえらい』筑摩書房、2005年 ・石浦章一『東大教授の通信簿―「授業評価」で見えてきた東京大学』平凡社、2005年 ・武内 清編『キャンパスライフの今』玉川大学出版部、2003年 ・京都大学高等教育研究開発推進センター編『大学教育学』培風館、2003年							

授業科目名	和文：日本論B－「ニホン」か「ニッポン」か－ 英文：Lecture on Japan B:Nihon or Nippon?				時間割	集中	
科目コード	502-0012	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考	別途掲示により通知				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
熊田亮介	文化環境		教文3-337・2668				
オフィスアワー 曜日及び時間：木 14:30～17:30			場所：教文3－337（電話：889-2668）				
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 日本の近現代史を中心として、ともすれば固定的にとらえがちな「日本」をめぐる諸問題について再検討を加え、従来の日本史像を見直す視点を提供する。							
2. 到達目標 講義で取り上げる問題について、関係文献を読み、多様な視点から検討を加えて、自分の意見を取りまとめる。							
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方							
1. 国号「日本」の成立はいつか 2～3. 「にほん」か「にっぽん」か 国号の読み方の歴史をたどり、その歴史的課題について考える。 4～5. 祝日の歴史 国定教科書に登場する祝祭日と現在の祝日の歴史をたどり、その歴史的課題について考える。 6～7. 「日本人」とは 日本人の定義について検討し、家族国家論・国民国家論・単一民族国家論について考える。 8. 改めて「日本」を問う							
授業に関連するキーワード	日本						
成績評価の方法及び合否判定基準							
各授業時間に行う小レポートと複数回のレポートをもとに評価する。							
教科書・参考書等							
教科書は使用せず、授業用資料をその都度配布する。参考書は随時紹介する							

授業科目名	和文：日本事情Ⅱ－異文化コミュニケーション入門－ 英文：Studies on Japan II: Understanding Japanese Culture Through Communication				時間割	月 3-4	
科目コード	502-0040	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部 of 学生						
授業の形式	講義・学生参加型	備考	学生参加型				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	異文化コミュニケーション関連科目						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
宮本 律子	教育文化学部		教文3－229・2688				
オフィスアワー 曜日及び時間：水曜日14：30－16：00 場所：宮本研究室（教文3－229）							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 体験を通して異文化コミュニケーションの方法を身につける 2. 到達目標 (1) 留学生と日本人学生が真に深い交流を行う (2) 共同で作品を作り上げるということを通して、異なる文化背景を持つ相手とのコミュニケーションの仕方を模索する (3) 自分の思考・行動様式を客体化出来るようになる (4) 日本と秋田をより深く知る							
カリキュラム上の位置付け 教養教育科目、目的・主題別科目の一つである。 1年次の学生や新しい留学生にとっては、大学生活のオリエンテーション教育となる。2年次以上の学生にとっては、新しい人間関係を作る場となる。							
授業の概要と進行予定及び進め方 コミュニケーションゲームや討論などを通して、交流を深めつつ、グループに分かれて、興味のあるテーマについて共同で作品を完成させる。グループ活動が中心。 流れとしては (1) 自己紹介ゲームなどを通して交流を深める。 (2) 前年の授業で実施されたプロジェクトの作品を鑑賞し、作品作りのイメージをもつ。 (3) グループに分かれて、様々なテーマについて討論をする（3～4回グループを変える）。 (4) グループで中間発表のテーマを決定→この後はグループ別作業。 (5) 中間発表（Power Point 使用、グループ単位） (6) 期末発表（Power Point 使用、中間とは別なグループ） (7) 個人レポート提出							
授業に関連するキーワード	異文化コミュニケーション	文化の相対性	多文化共生				
自己の開示	共同作業						
成績評価の方法及び合否判定基準 この授業は参加することに大きな意味がある。従って出席を重視する。 中間発表20%、期末発表20%、個人レポート35%、出席25%							
教科書・参考書等 特に指定しない。 授業中、参考資料をプリントして配布する。							

授業科目名	和文：日本事情Ⅳ－日本の文化と社会を理解する－ 英文：Studies on Japan IV:Japanese Cultural Background				時間割	金 5-6	
科目コード	502-0060	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学の学生（主として留学生）						
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考	学生参加型				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
伊藤 美樹子	非常勤講師		宮本研究室（教文3－229・2688）				
オフィスアワー	曜日及び時間：金曜日 14：30－15：30			場所：宮本研究室（教文3－229）			
授業の目的及び到達目標							
1. 目的							
1. 大学生生活に必要な日本および日本人の生活・文化についての基礎的な知識を得る							
2. 日本文化と自分の所属文化を比較する							
3. 文化の変容性や流動性について考えながら、自分の考え方を客観的にとらえる							
2. 到達目標							
1. 映像の中に描かれる日本文化に対して、その他の動作や周囲の状況とともに認識を深める。							
2. 日本について客観的、かつ主体的にとらえることができる							
3. 自分の文化や思考方法について客観的に認識できる							
カリキュラム上の位置付け							
留学生のオリエンテーション教育の一環							
授業の概要と進行予定及び進め方							
日本文化や日本人の言動について客観的・主体的に捉えるために、自らテーマを設定し、映画・ドラマ・漫画などを題材に分析し、レポートにまとめる。							
受講人数が多い場合は、グループに分かれ、互いに協力し合いながら進める。							
テーマの設定方法や題材選びなどについては、授業の中で説明する。							
原則的には外国人留学生を対象としている。							
授業に関連するキーワード	留学生	文化	日本社会				
客観的視点	主体性						
成績評価の方法及び可否判定基準							
レポート、提出物、受講態度、出席などにより総合的に評価する							
教科書・参考書等							
特に指定しない							

授業科目名	和文：社会と地域B—都市社会学の基礎— 英文：Society and Community B:Introduction to the Urban Sociology			時間割	火 3-4
科目コード	502-0121	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
開設学期等	開設学期等 2期				
受講対象学生	全学部				
授業の形式	講義	備考	時間が空いている等の理由ではなく、授業内容に関心のあるテーマか、しっかりと検討してから受講してください。		
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
和泉 浩	教育文化学部	018-889-2649			
オフィスアワー	曜日及び時間：随時		場所：教育文化学部3号館322		
授業の目的及び到達目標 1. 目的 現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらえるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基礎的な理論と今日の理論展開について学ぶ。 2. 到達目標 1. 社会学とは、どのような学問なのかを理解する。 2. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。					
カリキュラム上の位置付け 都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます。					
授業の概要と進行予定及び進め方 授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。 第1講 授業についての説明 第2～4講 社会学とはどのような学問か 第5講 社会学における「社会」 第6項 「地域」とは 第6～7講 地域社会、地域コミュニティの現状と問題 第8～10講 都市社会学の基礎と都市研究の理論潮流 （ジンメル、シカゴ学派からミシェル・フーコーの都市論まで） 第11～15講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学					
授業に関連するキーワード	社会学	地域	社会理論		
都市	空間論的転回				
成績評価の方法及び合否判定基準 授業に関連する内容についてのレポートで成績を評価します（レポートは複数回の場合があります）。レポート課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、すべてのものをDにします。手書きのレポートは基本的に不可とします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。					
教科書・参考書等 教科書と参考文献（和書および主に英語の洋書）は、授業の内容に関連するものを、そのつど授業のなかで指示します。					

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 I B－秋田の食－ 英文：Nature and Culture in Akita IB:Dietary Habits in Akita				時間割	金 7-8
科目コード	502-0154	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 2期
受講対象学生	全学1～3年					
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
長沼誠子	教育文化学部	教育文化学部1号館203室・018-889-2530				
オフィスアワー	曜日及び時間：月曜日9:00～12:00			場所：教育文化学部1号館203室		
授業の目的及び到達目標						
1. 目的 秋田大学に学ぶ学生として、秋田の食の特徴を知るとともに、地域における食嗜好・食文化の相違性とその要因について考える						
2. 到達目標						
1) 食生活の構造、おいしさ評価と食嗜好形成のメカニズムを説明できる。						
2) 食の地域性とその要因について、事例（秋田の食、出身地の食）をあげて説明できる。						
3) 食に関する統計資料を分析し、その結果を発表できる。						
4) 官能評価法の目的・方法を理解し、評価の実施・集計・解析を行い、その結果を発表できる。						
5) 各地域の食文化に関する情報を収集してグループ討論を行い、その結果を発表し、クラス内で意見交換ができる。						
カリキュラム上の位置付け						
目的主題別科目【地域社会論】の授業科目として、私たちの身近な食生活について「地域と食文化」の視点から考える。						
授業の概要と進行予定及び進め方						
1. ガイダンス：地域とは？ 食文化とは？						
2. 食生活の構造（食行動分析）何のために食べるのか？						
3. おいしさのメカニズム（官能評価・嗜好調査）おいしいと思う理由は？						
4. 食嗜好の形成要因（食歴調査）食べ物が嫌いになる理由・好きになる理由は？						
5. 米食の文化（官能評価）ご飯の好みに個人差や地域差はあるか？						
6. 米食の文化（資料分析）米食の国内比較・国際比較						
7. 米食の文化（グループ討論）秋田の米食は？ ○○地域の米食は？						
8. ミニシンポジウム：「地域と食文化を考える－米食文化を中心として」						
9. 秋田の食文化（資料分析）調理加工法に地域差はあるか？						
10. 秋田の食文化（資料分析）塩味・甘味の好みに地域差はあるか？						
11. 秋田の食文化（官能評価）秋田の食の特徴は？						
12. 行事と食（資料分析）行事食が継承される理由・継承されない理由は？						
13. 地域と食文化（グループ討論）						
14. ミニシンポジウム：「地域と食文化を考える」						
15. 期末試験						
*授業の内容に応じて評価・調査・集計・解析を個別あるいはグループ別を実施し、毎時、評価用紙・課題用紙などを提出する。						
*集計作業・結果の解析、情報の収集などを授業時間外の課題にする場合がある。						
*学生への質問、討論は随時行う。						
*PCプロジェクターは随時活用する。						
授業に関連するキーワード	食生活	食文化	食嗜好			
地域	秋田	米食	行事食			
成績評価の方法及び合格判定基準						
評価・課題用紙の内容40%、発表・討論参加状況30%、 期末試験（資料等の持込有）30% 総合的に評価して100～80点をA、79～70点をB、69～60点をC、59点以下はDとする。						
教科書・参考書等						
資料を配布する。参考書は授業時に紹介する。						

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 II B－秋田の農－ 英文：Nature and Culture in Akita IIB:Agriculture in Akita				時間割	火 5-6	
科目コード	502-0174	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
寺井謙次	教育文化学部	教文 1-212・2690					
オフィスアワー 曜日及び時間：随時			場所：教文 1-212				
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 秋田の風土的認識を土台にしながら秋田の農業の姿や歴史を概観し、「農とは何か」を考えてもらう一つの契機としたい。							
2. 到達目標 単に「農」にかかわる断片的な知識を得るということではなく、地域性や社会環境、さらには食糧生産や環境保全との関係性のなかで、「農の営み」について自分なりの考え方をもつことを期待している。							
カリキュラム上の位置付け							
「地域社会論」を構成する 1 科目として、内容が科目間相互に関連するものである。							
授業の概要と進行予定及び進め方							
1. はじめに							
2. 秋田の自然 (1) 自然環境							
3. 秋田の自然 (2) 農業的自然							
4. 秋田の稲作 (1) イネと人間とのかかわり							
5. 秋田の稲作 (2) 生き物としてのイネの一生							
6. 秋田の稲作 (3) 昔の品種と栽培の技術							
7. 秋田の稲作 (4) 今の品種と栽培の技術							
8. 稲作の北進と冷害の歴史							
9. 秋田の農業 (1) 風土性の違いと農作物							
10. 秋田の農業 (2) 豆の話							
11. 秋田の農業 (3) その他の農作物							
12. 秋田の野菜							
13. 農業について秋田の子どもたちはどう考えているのだろうか							
14. そして親たちや行政は							
15. まとめ							
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法及び合否判定基準							
出席状況 (40 %) レポート (複数回) (60 %)							
教科書・参考書等							
随時紹介							

授業科目名	和文：秋田大学論Ⅱ－がんばれ！秋大生－ 英文：Lecture on Akita University II: Encouraging Messages from Guest Teachers			時間割	水 1-2
科目コード	502-0223	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15
開設学期等	開設学期等 2期前半				
受講対象学生	全学部1～4年				
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名	特になし				
内容的に密接に関係する授業科目名	秋田大学論Ⅰ－秋田大学の歴史とこれから－（502-0212）				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
教育推進主管（責）		一般教育1号館2階主管室			
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：	
授業の目的及び到達目標 1. 目的 社会から秋田大学・秋田大学生に対する評価・期待について学ぶ。 2. 到達目標 ・大学生生活を通じて身につけるべき能力について説明できる。 ・秋田大学で学ぶことに対する意欲を高める。					
カリキュラム上の位置付け 教養基礎教育の目標1.「高校教育から大学教育への円滑な導入・転換を図り、大学生としての学習方法の基本に習熟させる」及び、目標5.「知性・情操・身体の各面における教育を通じて豊かな人間形成を目指す」に密接に関連する科目である。					
授業の概要と進行予定及び進め方 「秋田大学論Ⅱ」では、秋田県内各界のゲストティーチャーが、社会から見た秋田大学、秋田大学の在学生及び卒業生への期待、将来展望等について講義します。講義を通じて秋田大学の現状について多面的に理解するとともに、秋田大学でどのような学生生活を過ごすか、何を学ぶか、どのような形で社会と関わっていくかについて、深く考察してほしいと思います。 各回の講義担当者は、決定次第、掲示によりお知らせします。 参考までに、昨年度のゲストティーチャーを以下に示します（担当順、敬称略。カッコ内は当時の職名）。 ・浜田 純（秋田県立図書館長） ・沢井 範夫（秋田県立博物館長） ・西村亜希子（秋田県警察本部） ・柴田 義弘（秋田県高等学校長協会会長・秋田県立秋田高等学校長） ・小笠原直樹（株式会社秋田魁新報社取締役編集局長・論説委員長） ・斎藤 正喜（元秋田県工業技術センター所長） ・村益 健太（NHK秋田放送局放送部長）					
授業に関連するキーワード	秋田大学	大学生	教養教育		
ゲストティーチャー	外部評価	社会参加			
成績評価の方法及び合否判定基準 毎回授業終了時に提出する小レポートによって評価します。各レポートに対して評価を行い、全体の得点が80%以上：A、70%以上80%未満：B、60%以上70%未満：C、60%未満：Dとします。ただし、小レポートの未提出が3回に達した時点で、履修放棄とみなします。					
教科書・参考書等 教科書は特に使用しません。					

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 IV B－秋田の自然・資源・社会・文化－ 英文：Nature and Culture in Akita IVB:Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita				時間割	木 7-8	
科目コード	502-0234	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
水田 敏夫	地球資源	工資 G310・889-2380	石沢 真貴	政策科学	教文 3-322・889-261 教文 3-322・889-2616		
石山 大三	環境資源センター	工資セ 218・889-2447	天野 憲一	医学部附属実験実習機器センター	医・884-6190		
井上 正鉄	人間環境	教文 4-412・889-2588	神 万里夫	医学部内科学第 1 講座	医・884-6104		
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜, 16:10-17:00			場所：工資 G310・889-2380			
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 秋田大学で学ぶ大学生として、秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、爾後の専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。							
2. 到達目標							
1) 限りある地下資源の基礎的知識を学習し、世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し、資源の生成機構を理解できる。							
2) 世界自然遺産地域に指定された白神山地の生態系を理解し、人間との共存の道を探ることができる。							
3) 秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる。							
4) 秋田県のツツガ虫病の実態を把握し、この症病の疫学、病態学、免疫学的な面を考えることができる。							
5) 胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解することができる。							
カリキュラム上の位置付け							
人間生活に深く関連する事柄の中で、秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ、3 学部の教官がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は水田 敏夫）。							
授業の概要と進行予定及び進め方							
第 1 回（水田）：限りある地下資源について、地殻での資源鉱物の賦存状況そして金属の濃集による鉱床の生成を概説し、エネルギー資源賦存の基礎的知識を学習する。							
第 2 回（水田）：秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている。県周辺の地下資源の賦存状況を概説し、秋田県北東部の北麓地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術、そして世界への貢献について紹介、資源問題を考える。							
第 3 回（石山）：地学や地質の自然物を対象とする学習は、実際に野外における観察や実物に触れることが大切である。資源に関する講義の理解度をより高めるために、本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物、鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）。 ＜鉱業博物館玄関に集合＞							
第 4 回（井上）：秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園及び世界自然遺産地域に指定された白神山地があり、両地共にブナ林に覆われ、そこには国指定天然記念物であるイヌワシ、クマゲラを始め貴重な鳥獣が生息している。秋田が誇る生態系の構成員である貴重な鳥獣の生態を紹介、人間との共存の道を探る。							
第 5 回（井上）：世界遺産地代白神山地を紹介し、白神山地の保護・管理の在り方を探る。							
第 6 回（石沢）：秋田の生活、秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から明らかにする。							
第 7 回（天野）：秋田県を含む裏日本には昔からツツガ虫病というダニに刺されることによるリケッチア症が存在している。現代でも秋田県では年間数十人・全国では数百人の規模で発症している。この症病の疫学、病態学、免疫学的な面を紹介し、その存在を知ってもらう。							
第 8 回（神）：「胃癌について」日本は欧米に比し胃癌の発生が多いことが知られている。その日本の中でも秋田県の胃癌発生率は高く、胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解する。							
メッセージ：プリント、OHP、PC プロジェクターを用いながら講義を進める。 自然物を対象とする地学や生物学は、講義に加え、野外や本学の鉱業博物館等で観察することが望ましい。							
授業に関連するキーワード	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床と鉱業博物館	世界遺産と白神山地				
秋田の自然	秋田の生活	ツツガ虫	癌				
成績評価の方法及び合否判定基準							
出席点及び授業内容に関するレポート（50%）、簡単な小テスト（50%）で評価する。 80 点以上を A、79～70 点を B、69～60 点を C とし、それ以下を不合格とする。							
教科書・参考書等							
特に使用しない。							

授業科目名	和文：地球の環境と資源 I B－地球環境と化学元素－ 英文：Global Environment and Resources IB:Chemical elements and global environment				時間割	月 1-2	
科目コード	503-0019	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部全学年						
授業の形式	講義	備考	16年度以降入学者				
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合 A を履修していれば、化学 I,II を履修していなくても、学習によって理解できる内容です。						
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源 IIB-地球環境と放射線」「地球の環境と資源 III-環境モニタリングと大気環境」						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教育文化学部自然環境講座					
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜日、13時から14時30分まで			場所：教文3-218 教文3-218			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 地球環境における化学元素の分布と生体内での機能についての理解 2. 到達目標 1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。							
カリキュラム上の位置付け 環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏、大気圏での元素の存在量 5, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 6, 生体における元素存在量 7, 生体における化学元素の機能 8 回目の授業時間は、「まとめ」と認められた事由で授業を欠席した者に対する「再試験」を行います。 *遅刻者は最前列への着席していただきます*							
授業に関連するキーワード	地球	大気	海洋				
生体	化学元素	必須元素	有毒元素				
成績評価の方法及び合否判定基準 授業3回目以降、毎回10分程度の小試験を行います。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 評価：A 100－80%, B 79－70%, C 69－60%, D 59－0%, 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 受講者が確定した段階でプリントとバーコード付き出席票をまとめて配布します。紛失しても原則として再配布しません。 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。							
教科書・参考書等 参考書・教科書は用いません。プリント、OHPを利用します。							

授業科目名	和文：地球の環境と資源 III－環境モニタリングと大気化学－ 英文：Global Environment and Resources III:Environmental monitoring and atmospheric chemistry				時間割	月 1-2	
科目コード	503-0022	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部全学生						
授業の形式	講義	備考	16年度以降入学者				
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合 A を履修していれば、化学 I,II を履修していなくとも、学習によって理解できる内容です。						
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源 IAB-地球環境と化学元素」「地球の環境と資源 IIA-地球環境と放射線」						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文 3-218・2622					
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日、13時から14時30分まで 場所：教文 3-218							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 化学の立場で地球の大気環境について理解する。 2. 到達目標 地球環境と大気化学について以下の内容について理解し説明できること。 1, 環境モニタリングと化学分析 2, 大気環境問題に関わる化学反応 3, 大気環境問題の現状と未来							
カリキュラム上の位置付け 環境や化学を専門とする学生には、入門的な内容。それらを専門としない学生には、教養を高める内容。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1、微量化学成分の化学分析 2、水質および大気のモニタリング 3、難分解性化学物質による環境汚染 4、光と物質の相互作用 5、地球規模での大気環境問題、地球温暖化と二酸化炭素 6、同、酸性雨と硫黄化合物 7、同、オゾン層破壊とフロン 8、まとめ 8 回目の授業時間は、「まとめ」と認められた事由で授業を欠席した者に対する「再試験」を行います。 *遅刻者は最前列への着席していただきます*							
授業に関連するキーワード	モニタリング	地球環境	大気				
化学分析	地球温暖化	酸性雨	オゾン層破壊				
成績評価の方法及び合否判定基準 授業 2 回目以降、毎回 10 分程度の小試験を行います。 合否：小試験の成績が 60 % 以上を合格とします。 評価：A 100－80 % , B 79－70 % , C 69－60 % , D 59－0 % , 履修放棄：出席日数が 2/3 に満たない者 受講者が確定した段階でプリントとバーコード付き出席票をまとめて配布します。紛失しても原則として再配布しません。 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。							
教科書・参考書等 参考書・教科書は用いません。プリント、OHP を利用します。							

授業科目名	和文：地球の環境と資源 IV B－地層の話－ 英文：Global Environment and Resources IV B:Introduction to Geological Sciences				時間割	水 5-6	
科目コード	503-0124	必修・選択	選択	単位・時間数	2・Intro- duc- tion30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
白石建雄	工学資源学部	工資 2-B304・2652					
佐藤時幸	工学資源学部	工資 2-G212・2371					
山元正継	工学資源学部	工資 2-G306・2375					
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜日，12：00～12：30			場所：工資 2-B304			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 地層記録を素材として，地球科学的自然認識方法，ならびに地球上で生起する諸現象とその自然史的展開を学び，歴史性を背負った存在としての地球に関する認識を深めることを目的とする。 2. 到達目標 1) 地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。 2) 地質学的自然認識方法を解説できる。 3) 地球史が単なる漸進的変化ではなく，さまざまな事件で構成されていることを理解できる。 4) 地震や火山噴火などの地学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。 5) 日本列島に自然災害が多発する原因の理解にもとづき，日常生活のあり方について考察できる。							
カリキュラム上の位置付け 本講義は目的・主題別科目のうち，「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたり，高校までの平均的知識のほか，特別な予備知識は前提しない。							
授業の概要と進行予定及び進め方 基礎編 1. ガイダンス 2. 地層は時計である；地質学的認識の基礎 3. 古生物の進化と地質時代区分；地質時代区分は何を根拠に行われているか 4. 年代を測る；地質時代の年数はどのようにして測定されているか 各論編 5. ワンダフルライフ－カンブリア紀の爆発－；高等動物大量出現の時，何が起こったか 6. 大量絶滅の謎；恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したのか 7. マグマのはたらき；火山噴火を起こすものの正体 8. 火山噴火のタイプ；火山噴火はどのように起こるのか 9. 地層の形成；地層のできかた 10. 気候は変動する；地層記録によれば，地球上の気候は驚くほど大規模に変化する 11. 地磁気は逆転を繰り返した 12. 地層の変形と地殻変動 総括編 13. 海洋底は拡大している；海洋底は大洋中央海嶺で形成され，水平方向に移動する 14. プレートテクトニクス地球表層で進行している基本過程 15. 日本列島はどういう所か；日本列島ではなぜ地震災害，火山災害が多いのか							
授業に関連するキーワード	地質学	古生物（化石）	進化				
マグマ	火山噴火	地球環境変遷	プレートテクトニクス				
成績評価の方法及び合格判定基準 期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。							
教科書・参考書等 教科書は使用しない。毎回の講義にプリントを配付するとともに参考書を紹介する。							

授業科目名	和文：環境と社会 B-地域環境とインフラストラクチャー 英文：Environment and Society B:Regional Environment and Infrastructure				時間割	木 7-8	
科目コード	503-0184	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部 1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
木村一裕	工学資源学部	総合研究棟 7F 教員室 2368	徳重英信	工学資源学部	工資 1-412 2367		
石井千万太郎	工学資源学部	総合研究棟 5F 教員ゼミ室 2361	松富英夫	工学資源学部	工資 1-416 2363		
浜岡秀勝	工学資源学部	総合研究棟 7F 教員室 2974	荻野俊寛	工学資源学部	工資 1-419 2364		
薄木征三	工学資源学部	工資 1-410 2357					
オフィスアワー 曜日及び時間：講義終了時にアポイントを取って下さい。 場所：各教員室							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後に具体的な整備例について履修する。 2. 到達目標 1. 社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2. 地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3. 社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。							
カリキュラム上の位置付け 日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。							
授業の概要と進行予定及び進め方 第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～5回：社会資本整備で不可欠な材料（コンクリート）について、特に環境にやさしいコンクリート施工 第6回：環境にやさしい木材（集成材）および長持ちする鋼材を用いた社会資本整備について 第7～8回：地盤災害と水環境							
授業に関連するキーワード	人間	社会的理念	社会基盤				
社会資本整備の理念	地盤災害	水環境					
成績評価の方法及び合否判定基準 レポート（30%）、グループ学習の成果（60%）、その他出席状況等（10%）を考慮して総合的に評価する。							
教科書・参考書等							

授業科目名	和文：心理学ⅡA－現代心理学の課題－ 英文：PsychologyⅡA -Introduction to Psychology-				時間割	水 5-6	
科目コード	504-0021	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	1～2年生(医学部以外)						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	心理学Ⅲ						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
清水 貴裕	教育心理学講座	教 5-405, 2539					
オフィスアワー 曜日及び時間： 金 14：30～17：30			場所： 研究室				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 人間の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。 2. 到達目標 以下に示す項目について、用語を理解し、簡単な説明ができるようになること。							
カリキュラム上の位置付け 認定心理士資格取得のための必修科目。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. オリエンテーション 2. 正確の捉え方 3. 正確の測り方 4. 自己の理解 5. 他者の認知 6. 他者とのかかわり方 7. 集団の中の個人 8. 氏と育ち 9. 発達の段階 10. 自己の発達 11. ストレスとの付き合い方 12. 心の問題への理解 13. 心理療法の考え方(1) 14. 心理療法の考え方(2) 15. 試験							
授業に関連するキーワード	人格心理学	社会心理学	発達心理学				
臨床心理学							
成績評価の方法及び可否判定基準 試験(80%)、出席(20%)とし、60点以上で合格とする。							
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は授業で適宜紹介する。							

授業科目名	和文：心理学II B－現代心理学の課題－ 英文：PsychologyIIB				時間割	水 5-6	
科目コード	504-0022	必修・選択	必修	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～4年次生						
授業の形式	講義・実習・学生参加型	備考	医学部医学科必修。他学部・他学科生にとっては選択科目。				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	心理学I						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
小川幸男	教育文化学部		5301・889-2673				
北島正人	教育文化学部		4316・889-2693				
オフィスアワー 曜日及び時間： 特に設けませんが、電話アポの上、会います。 場所： 留守のときは電話に連絡先を録音して下さい。							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 日常生活や職業に生かせる心理学の基礎的理論と方法を学習する。 2. 到達目標 (1) 日常生活で起こっていることを、授業でとりあげたトピックの範囲で心理学的に理解することができること。 (2) 心理学をより専門的に学習するための基礎を習得すること。 (3) 心理学研究の基礎的方法を習得すること。							
カリキュラム上の位置付け あらゆる人間活動と関係する「心理学」の基礎を習得させることは、優れた人材育成のための基礎教育となる。							
授業の概要と進行予定及び進め方 基本的には講義形式とするが、一部、実習や学生参加形式を取り入れる。映像教材（DVD、パワーポイント）を必要に応じて使用する。 予習は必要としないが、自分の心や生活を「心理学的に」考えるような復習を望む。 (1) 心理カウンセリング1. 誤解と偏見 (2) 心理カウンセリング2. カウンセリングマインド (3) 非言語的コミュニケーション (4) 説得 1. 人の態度を変えるには (5) 説得 2. コマーシャル (6) 対人魅力と恋愛 (7) パーソナリティ (8) 痛みの心理学 (9) 心理的ストレス (10) 流言 (11) 自殺予防 (12) 心の構造と機能 ～精神分析学の理論～ 1. 精神分析学の基礎理論 (13) 心の構造と機能 2. 防衛機制 (14) 心の構造と機能 3. 精神分析学から日常をみる (15) 全体のまとめ							
授業に関連するキーワード	臨床心理学	社会心理学	コミュニケーション				
精神分析学							
成績評価の方法及び合否判定基準 最後に試験を実施する。日常生活を心理学的に理解し説明できるかを判定基準とする。							
教科書・参考書等 教科書は指定せず、プリント等を配布する。参考書については、適宜、授業で紹介する。							

授業科目名	和文：表現と人間 I B－対人・対話・対応－ 英文：Human Expressions IB:Human Relations				時間割	木 5-6	
科目コード	504-0042	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～2年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
佐々木久長	医学部	884-6506					
オフィスアワー	曜日及び時間：	場所：					
授業の目的及び到達目標 1. 目的 人間関係に関する基礎的理論を学び、より良い人間関係が展開出来るようになる 人間関係がうまくいかない人に適切な支援ができるようになる 2. 到達目標 1. 人間関係の主体者としての自己理解を深める 2. 対人コミュニケーションの構造を理解する 3. 実際の対人関係の背景にある心理を理解する 4. 傾聴について理解し実践を試みる							
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 人間関係の主体者としての自己 2. 人間の存在性について 3. コミュニケーションについて 4. 傾聴について（1） 5. 傾聴について（2） 6. 受容と拒否 7. 援助と攻撃 8. 依存と自立 9. 家族という関係 10. 友情について 11. 個人と集団 12. 対人関係の健康と病理 13. テスト 14. 全体のとらえ							
授業に関連するキーワード	自己理解	他者認知	コミュニケーション				
傾聴							
成績評価の方法及び合否判定基準							
教科書・参考書等							

授業科目名	和文：文学論B－教養読書基礎講義－ 英文：Lecture on Literature B:Lecture on liberal reading				時間割	金 3-4	
科目コード	504-0062	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
成田 雅樹	教育文化学部	3-139・2531					
オフィスアワー	曜日及び時間： 曜日及び時間：月曜日 8:50～12:00 火水金曜日 16:10～		場所： 教育文化学部 3-139 (電話：889-2531)				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 (1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。 (2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。 2. 到達目標 (1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。 (2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。 (3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。							
カリキュラム上の位置付け 文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1 (10/5)回…オリエンテーション 2 (10/12)～4 (10/26)回…明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート（映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較） 5 (11/2)～6回 (11/9)…大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロッコ」「蜃気楼」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較） 7 (11/16)～8 (11/30)回…大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「ゼロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート（映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較） 9 (12/7)回…昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較） 10(12/14)～11(12/21)回…昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較・以前の読後感との通時的比較） 12(1/11)～13(1/25)回…現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート（映像と原作との比較） 14(2/1)回…現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート（重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較） 15(2/8)回…試験（レポート） ※ 2～4回、7～8回、12～13回はビデオを使用する。授業で扱う原作の中で、短編は授業時間内に読むこともある。ただし、2回目までに「それから」を、9回目までに「人間失格」を、12回目までに「つぐみ」を読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。							
授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度	ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリティ				
解釈と物語スキーマ	視点及びシーンとサマリー	芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴリー	表層と深層及びメタファーとテーマ				
成績評価の方法及び合格判定基準 出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数（作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚）が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業中の取り組みに問題がない場合：C、出席及び提出物が数・内容ともほぼ完全な場合：B、Bの者で提出物の内容が優れ、授業の到達目標に十分達していると認められる場合：A。配点は概ね、授業中の取組3.5点、提出物の内容3.5点、試験レポートの内容3.0点とする。追試・再試は行わない。							
教科書・参考書等 「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテキスト（原作の文章）及び資料は印刷して配布する。							

授業科目名	和文：日本とアジアの文化 III - 日本の古典文学 - 英文：Cultures in Japan and Asia III:				時間割	金 3-4	
科目コード	504-0111	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部学生						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	なし						
内容的に密接に関係する授業科目名	日本文化基礎論 III・IV、日本文化論						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
志立正知	教育文化学部日本・アジア文化講座	教 3-132・2611					
オフィスアワー 曜日及び時間：金 5・6							
場所：志立研究室(教 3-132)							
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 古典に対する知識や理解を深めることで、先人達の知恵に学ぶとともに、現代日本文化や日本人としての私たち自身のアイデンティティを形成している文化的伝統を自覚的に扱う意識を育てる。							
2. 到達目標 1. 基礎的教養としての古典文学に対する知識を習得し、古典に親しむことができる。 2. 作品の歴史的・思想的背景に対する基礎的知識を身につけ、それについて説明できる。 3. 古人の知恵に学び、現代が古典から継承しているものについて、自らの力で考え論じることができる。							
カリキュラム上の位置付け							
幅広く深い教養、多角的でしなやかな思考力、総合的かつ自律的判断力を培い、豊かな人間性を涵養するという教養教育の目的に即し、大学人として必須の日本文化に対する基礎的理解と、それに根ざして今・自分を捉え直す力を身につけることをねらいとしている。							
授業の概要と進行予定及び進め方							
古典文学作品、は先人達の英知の結晶である。そこには、当時の文化・思想などの伝統がさまざまな形で投影されている。それが今日なお読みつがれているのは、そこに普遍的な「人間」に対する深い洞察が潜んでいるからである。だからこそ、古典作品は今日なお生き生きとした光を放っている。 本講義では、作品の文学的鑑賞をまず第一とする。同時に、作品が作られ享受された歴史的・社会的・文化的背景等についても言及を試みる。その上で、作品から浮かび上がる当時の人間・社会の本質を追求しながら、時代を超えて普遍的な人間と社会の問題や、その現代的意味について考察を発展させていきたい。 本年度は、今日もっとも親しまれている古典のひとつである『徒然草』を扱う。徒然草に記された内容は多様で、ときに真摯な求道者的側面を見せるかと思えば、極めて実利的な実生活に即した処世訓を記したりもする。それゆえに、時代や状況によってさまざまな読み方がなされてきた。本講義では、こうした『徒然草』の多面的な側面それぞれに光を当てながら、兼好の生きた時代状況・思想的背景などを踏まえることで、兼好の求めた本質を明らかにする。こうした過程を通して、今日の日本人のアイデンティティに大きな影響を与えている「中世」という時代と、時代状況によって育まれた人生観・世界観に対する理解を深めることを目的とする。また、【レポート】【発表】をとおして、自分自身の「生き方」を改めて見つめ直す姿勢を涵養するよう努める。							
1. 古典・テキストという概念について 2. 中世という時代 3. 『徒然草』前後—健康の体験した時代— 4. 『徒然草』の構成 5～7. 若き兼好と『徒然草』一序～三十段前後— 貴族的価値観・無常の肯定・隠棲への志向 8. 詠嘆的無常観から積極的無常観へ 9～11. 無常との対峙【レポート1】 「無常迅速」の認識 「寸陰愛惜」 「諸縁放下」 12～13. 兼好の眼差し【レポート2】 処世訓としての『徒然草』 『徒然草』の笑話 14. 王朝への憧憬 15. まとめ 【レポート1・2】では、事前に対象章段を指定、それについての「プレ・レポート（試案）」を用意、各自が意見発表や議論に参加できるように予習を求める。その後、講義における議論や解説を踏まえて、「レポート（成案）」の提出を求める。							
授業に関連するキーワード	中世(鎌倉末～南北朝)	無常観	人間観				
自然観	隠遁	伝統的美意識	帰属的価値観				
成績評価の方法及び合格判定基準							
レポート2回(70%)、および講義への参加・発言などの受講態度(30%)での総合評価。 2回のレポート(成案)の提出は必須。総合でAは80点以上、Bは79～70点、Cは69～60点とし、59点以下をD(不可)とする。							
教科書・参考書等							
テキスト：岩波文庫『徒然草』*書店・生協などで各自用意すること 参考図書：永積安明『徒然草を読む』(岩波新書) 小林智昭『無常感の文学』(弘文堂) 小松英雄『徒然草抜書』(講談社学術文庫)							

授業科目名	和文：日本とアジアの文化Ⅳ－中国の文化と文学－ 英文：Cultures in Japan and Asia IV: Literature and Culturers of the Chinese				時間割	金 3-4
科目コード	504-0121	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 2期
受講対象学生	教育文化学部ほか、全学部					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。					
内容的に密接に関係する授業科目名	「日本とアジアの文化」に係る科目全般					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
石川 三佐男	教育文化学部	教3-131・2610				
オフィスアワー 曜日及び時間：随時（会議等で不在の時は御免） 場所：石川研究室（教3-131）						
授業の目的及び到達目標 1. 目的 1) 中国の文化や文学の普遍性と特殊性について知見を広め、その方面の基礎的教養を身につける。 2. 到達目標 1) 中国の考古、文物、文学、人物、歴史等について基本的ものの見方、考え方を養う。 2) ものごとを実証的に探求する方法について考える。						
カリキュラム上の位置付け 目的主題別科目「人間発達と文化」の一つ。 「日本とアジアの文化」に即し、中国の文化と文学の発生と展開に関わっている。						
授業の概要と進行予定及び進め方 ○本授業は「最も古いものは最も新しい要素を宿している」という視点に立っている。 ○珍しい考古出土資料（映像・画像・写真など）を扱うよう努める。 ○古代の考古、文物、文学、人物、事件等を扱う。 ○テーマは必ずしも連続していないが、互いに何らかの関わりをもつよう務める。 ○授業は「中国の文化と文学」に係る基礎的知見を養うことができるよう進める。 第01講 先秦の文化と文学－黄河流域の文字文化 第02講 先秦の文化と文学－黄河流域の青銅器文化 第03講 先秦の文化と文学－長江流域の青銅器文化 第04講 先秦の文化と文学－黄河流域の歌謡「詩経」 第05講 先秦の文化と文学－長江流域の歌謡「楚辞」 第06講 先秦の文化と文学－屈原伝説 第07講 秦代の文化と文学－始皇帝とその時代 第08講 秦代の文化と文学－始皇帝とその時代 第09講 秦代の文化と文学－始皇帝とその時代（前半の学習に係るレポート提出） 第10講 漢代の文化と文学－馬王堆漢墓の世界 第11講 漢代の文化と文学－漢鏡の世界 第12講 漢代の文化と文学－漢鏡の銘文と文学 第13講 漢代の文化と文学－古詩の世界 第14講 唐代の文化と文学－鑑真渡日の謎 第15講 唐代の文化と文学－阿倍仲麻呂と井真成（後半の学習に係るレポート提出）						
授業に関連するキーワード	常識のなかにひそむ「真実」	常識のなかにひそむ「うそ」	ものごとの実相			
文献と考古資料の比較考証	伝世文献資料に見る「歴史化」	考古出土資料のもつ力	实事求是	三重証拠法		
成績評価の方法及び合否判定基準 評価：前半の学習に係るレポート：35点、後半の学習に係るレポート：35点、 平素の取組：30点 計：100点 成績：100点～80点「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、 60点未満「D」 出席時数の扱い：「単位認定のきまり」による						
教科書・参考書等 映像、画像、写真資料、プリントのほか、石川三佐男編「中国の文化と文学」を補助教材資料として用いる。						